

戦争をさせない
Anti-War Committee of 1000
1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.33

(2015年9月4日号)

〒101-0063 東京都千代田区

神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL:03-3526-2920

FAX:03-3526-2921

■8.30 怒りの国会包囲！ 国会正門前・霞ヶ関 周辺に 12 万人が大結集・全国 300 ヲ以上



国会正門前では、押し寄せた参加者が警察の規制を突破してデモが決壊し、車道一面に溢れた（写真＝今井明）

8月30日、国会正門前から霞ヶ関は、「戦争法案」に反対する12万人で埋め尽くされました。「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」は、「戦争法案廃案！安倍政権退陣！8.30国会10万人・全国100万人大行動」を行い、時おり雨が降る天候にもかかわらず、これまで最大規模の大結集となりました。

正午すぎに集まり始めた参加者はしだいに膨れ上がり、国会正門前では13時40分ごろ車道へと溢れ出しました。また、国会南庭前、首相官邸前、国会図書館前でも一部が決壊し、参加者が車道へと溢れ出しました。さらに、霞ヶ関一帯



日比谷公園・霞門ステージ周辺も多くの参加者が道路まで溢れた

(日比谷・弁護士会館前)



から日比谷公園まで人波が続き、「霞門ステージ」では沿道から日比谷公園内まで人が溢れました。国会正門前だけでなく、国会周辺から霞ヶ関一帯も含めて12万人の参加者となりました。

集会には民主党、社民党、共産党、生活の党と山本太郎となかまたちの4党首が揃って、戦争法案廃案への決意を固めました。また、多くの著名人、立憲デモクラシーの会、学者の会、安保関連法案に反対するママの会、SEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動）、弁護士、宗教者らが

戦争法案廃案までたたかい抜くことをアピールしました。

また、この日は全国各地で集会が開かれ、約300ヵ所以上（集計中）で数十万人が参加し、国会包囲に連帯して戦争法案廃案、安倍政権退陣を訴える行動が行われました。



国会正門前ではSEALDsのメンバーや集まった数万人の市民が、降りしきる雨の中で抗議の声を上げ続けた

様々なプラカードを掲げて抗議する参加者の人々（国会正門前）



決壊して車道に溢れ出したデモの数万人にのぼる市民の前に、警官隊もなす術がなかった（国会正門前）

【8.30 国会周辺に押し寄せる怒りの抗議】 戦争法案廃案！ 安倍政権退陣！



世を超えた参加者が結集し、戦争法案廃案、安倍政権退陣の怒りの声を上げた（国会正門前）



様々なプラカードを掲げ、国会に向かってシュプレヒコールを上げる参加者（写真=今井明）



参加者が歩道から車道まで一面に溢れ、人で埋め尽くされた国会正門前ステージ。「戦争法案今すぐ廃案!」「安倍政権はただちに退陣!」の怒りの声を国会にぶつけた(国会正門前)



野党4党の党首が揃って登壇し、戦争法案廃案をめざして協力して闘うことを確認した。左から、社民党・吉田忠智党首、共産党・志位和夫委員長、民主党・岡田克也代表、生活の党と山本太郎となかまたち・小沢一郎共同代表(国会正門前)



日比谷公園・霞門ステージでは、民主党・菅直人元首相、社民党・福島みずほ副党首、共産党・小池晃副委員長や多くの著名人らが登壇して、戦争法案廃案と安倍政権退陣への決意を訴えた(弁護士会館前)

■8.30 集会参加の国会議員・著名人らの発言（抜粋）

【国会正門前ステージ】

岡田克也議員（民主党代表） 今日から始まる3週間、一日一日が本当に大事だ。議論をすればするほどおかしくなる、そんな法案を通すわけにはいかない。安倍政権の暴走はこの法案に留まるものではない。自民党の憲法改正案には自衛権を制限なく認めるものにしようとする。安倍政権が続く限りこの動きは止まらない。厳しい闘いだ、一緒になって止めようではないか。

志位和夫議員（共産党委員長） なぜ集団的自衛権行使が必要なのか、もう説明がつかない。邦人輸送中の米艦防護の話も、ホルムズ海峡の話も、政府が出してきた具体例はすべて嘘ごまかしだった。今や自衛隊が米軍の指揮下で暴走している。それを突きつけても総理も防衛大臣も当然だと居直っている。この二人には揃ってやめてもらうしかない。

吉田忠智議員（社会民主党党首） 今回の審議は安倍総理の思い通りに進まず、遅れに遅れている。それは日本各地で反対の声が大きく広がっているからだ。安倍総理の言う積極的平和主義は、武力行使を背景にした時代遅れの安全保障政策だ。平和憲法を活かす安全保障政策こそ今求められている。党派や立場を超えて戦争法案廃案に全力を尽くす決意だ。

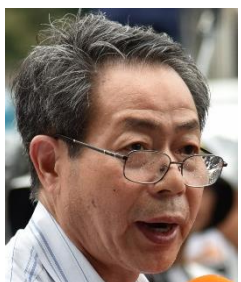
小沢一郎議員（生活の党と山本太郎となかまたち共同代表） 私はこれまでこうした集会に顔を出したことはほとんどない。しかし今回だけは、何としてもこのいい加減で馬鹿げた法律を阻止し、安倍内閣を退陣に追い込もうという思いで皆さんの前に立った。お互いに力を合わせて安倍内閣退陣まで頑張り抜きましょう。

鎌田慧さん（ルポライター） いま55年前と同じように私たちは国会前に集まっているが、もっと頑張らなければいけない。この55年間、私たちがもっと努力していれば安倍内閣が生まれることはなく、今日この場所に集まる必要もなかった。安倍内閣は55年経って出てきた嘘つき内閣だ。私たちは沖縄、原発、全てで闘っていこう。



山口二郎さん（法政大学教授） 安倍政権は国民の生命の安全なんてこれっぽっちも考えてない。その証拠に、福島原発の被災者に対する支援の縮小を閣議決定した。線量が下がったからもう帰れ、これ以上逃げるのはお前らの勝手だから支援しないという。民主主義の仕組みを使って、こんな政権は叩き斬ってやろう。与党はやりたいことを次から次に先送りにして、この戦争法案に最後の望みをかけているが、我々の力でこの企みを粉砕するために、闘いを続けていこう。

神田香織さん（講談師） 私たち講談師は、見てきたような嘘をつき、と言われ昔から庶民に夢を与えるための嘘を語ってきた芸人だ。しかし安倍さんは、人を殺す嘘をついている。そういう嘘は講談師にとってもいい迷惑だ。ただ、安倍さんがやった唯一の良いことは、若者たちを立ち上がらせ、自分の命を自分で守る必要に気づかせたこと。それだけ十分なので、さっさと退陣してもらおう。



池内了さん（宇宙物理学者） 今、科学の軍事利用が具体的に始まろうとしている。海外に出かけていく兵士たちの武器の研究を、科学者にやらせようとしている。今の段階でその芽を潰しておくことが非常に大事だ。その意味で、安倍政権の圧政を止め、ただちに退陣させることが日本を救う道だと思う。今日の成功を大きく取り上げ、より広く安倍政権にNOを突きつけていけるよう、皆さんと共に頑張っていきたい。

有田芳生議員（民主党・過剰警備監視 国会議員団） 9月は緊迫した状況になるが闘い続けよう。かつてスペインではファシズムに対抗して「やつらを通すな」という合言葉が使われた。私たちは安倍政権の民主主義の破壊、戦後70年の平和をまるごと消滅させようとする権力の横暴に対して、やつらを通すなど、声をあげて進んでいこう。



奥田愛基さん（SEALDs：自由と民主主義のための学生緊急行動） 安保法案のことが決まったらどうするの、とよく聞かれるが、これからも問われるのは主権者である私たちが。ずっと私たちが考えていくのが民主主義だと思う。だから行動し続ける。安倍首相は安保法案を軽視し、憲法を無視していいと思っている。それはこの国に生きる一人一人を無視することでもある。率直に言う、憲法を無視するなら総理をやめてくれ。

坂本龍一さん（音楽家） 私たち日本人の中に、憲法の精神、9条の精神がここまで根付いていることを皆さんがはっきり示してくれて勇気づけられている。ここにきて憲法の精神を取り戻そうとするのは、まさしく憲法を血肉化する、とても大事なことだと思う。イギリス人にとってのマグナカルタ、フランス人にとってのフランス革命に近いことが、今ここで起きていると思う。一過性のものにしないで、仮に法案が通っても終わりにしないで行動を続けて欲しい。一緒に頑張ろう。



森村誠一さん（作家） 戦争が始まれば、最初に犠牲者になるのは若者たち。また、女性の人権も踏みにじられる。そのことを忘れないで欲しい。安倍首相は馬鹿馬鹿しい戦争を再びしようとしている。物書きとして私はこの政権に反対する。ここに集まった皆さん、今日この日を忘れず、絶対に安倍さんを許さしてはならない。それが私たちの責任だ。

浦田一郎さん（憲法学者・明治大学教授） 私が行った集団的自衛権に関する講演や授業での高校生や大学生の反応は大体似ている。「これまで政府が違憲としていたものをどういう理屈で合憲とできるのかわからない。わからないから違憲だ」というものだ。これは妙な回答ではあるが、本質もついていると思う。これまで違憲と言ってきた以上、合憲ということが証明できないのに閣議決定でごまかしたのであれば、違憲ということになる。これは廃案にするしかない。



【霞門ステージ】

佐高信さん（評論家） 今まさに安倍政権という暴走トラックが走っている。運転席には安倍首相が、助手席には公明党の山口代表が座っている。創価学会の中から安保法案に反対する人たちが出てきたが、公明党が動かなかつたら意味がない。これまでのような二枚舌で終わらせてはいけない。



雨宮処凛さん（作家・社会運動家） 先日、「アジア反戦大作戦」と銘打って、韓国や台湾の人たちと交流するイベントを行った。東アジアには安倍政権に危機感を抱いている仲間がたくさんいる。安倍さんがアジア諸国の対立を煽るなら、私たちアジアの民衆が草の根で連帯して抵抗していこうではないか。

古今亭菊千代さん（落語家） 落語家は芸以外で政治的な発言をしないほうがいいと言われ、とても悩んだ。しかし、落語は平和な世の中でなければ楽しめない。だから、落語家として、一人の人間として、はっきりと反対の声をあげることに決めた。私はこの戦争法案に反対する。

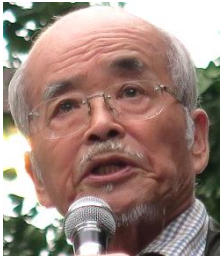




落合恵子さん（作家） 民意に耳を傾けることが民主主義の基本だということを、安倍政権に心から思い知らせてやろうではないか。私たちはあの政権の奴隷にはならない。どんな抑圧にも屈せず、声を上げていこう。



香山リカさん（精神科医） 私のような医療関係者は政治的に中立であるべきだと言う人がいる。しかし私は医師として、人の命を守るのが仕事だ。今、政権が人の命を奪うようなことをして、営業妨害されている。だから私は反対しているのだ。いつか、今日この日が正しかったと思ひ合える日が来る。それまで皆で頑張ろう。



前田哲男さん（軍事評論家） 法案がまだ成立していないにもかかわらず、すでに日米ガイドラインに沿って制服組は準備している。防衛省は来年度の防衛費予算として 5 兆円を超えるものを出してきた。中にはオスプレイを 17 機調達するようなお金も含まれ、日本版海兵隊の編成も目論まれている。戦争法案廃案だけでなく、安倍政権の退陣が今ほど必要な時はない。

■9.3 「戦争をさせない全国署名 2015」第 3 次集約分 40 万筆を参議院へ提出・合計 206 万筆に



第 3 次集約として提出した 40 万筆の全国署名（参議員請願課）

戦争をさせない 1000 人委員会 は 9 月 3 日、今年 1 月から全国に呼びかけて集めた「戦争をさせない全国署名 2015」の第 3 次集約分、40 万 8967 筆を参議員請願課に提出し、請願者の声をしっかりと受け止めることを要請しました。「戦争をさせない全国署名」は第 1 次・第 2 次集約提出分の 165 万 8955 筆と合わせて合計で 206 万 7922 筆に達しました。この間賜りましたご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。私たち「戦争をさせない 1000 人委員会」は、これからも皆さんとともに頑張ります！

■日弁連集会 & デモに学者・学生・市民が結集

8 月 26 日、日本弁護士連合会が主催する「安保法案廃案へ！立憲主義を守り抜く大集会&パレード 法曹・学者・学生・市民総結集！」が日比谷野外音楽堂で開催されました。冒頭で、日本弁護士連合会会長の村越進さんが挨拶し、安保法案の廃案



「廃案」「違憲」のプラカードを掲げて抗議する参加者（日比谷野音）

を訴えました。その後、法曹関係者、学者の会、安保関連法案に反対するママの会、SEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動）らがアピールを行い、連帯して安保法案の廃案に向けて闘うことを訴えました。集会後は国会に向けた請願デモが行われ、議員会館前では、弁護士らと国会議員の間でエールの交換が行われました。



村越進さん（日本弁護士連合会会長） 本日は、全国の弁護士と幅広い法曹関係者、学者、研究者、学生、市民が総結集した集会だ。国民の中で、安保法案が違憲であり、その成立を許してはならないという声が、職業や世代を超えて大きく盛り上がっているということだ。日本は憲法前文において、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように」と決意している。その決意を多くの国民が共有するために、日弁連も法律家団体として全力を尽くしたい。

上野千鶴子さん（元東京大学教授・NPO 法人ウィメンズ・アクション・ネットワーク理事長） 自民党の新憲法案には、緊急事態に法律と同じ効力を持つ法令を内閣が自由に発令できるとある。これこそ独裁政権そのものだ。現在の政権は着々とこの方向へ進んでいる。安倍政権はナチス同様、学校、メディア、近隣諸国の外国人を攻撃している。もはや最終段階の一手手前だ。今、全国 108 の大学から反対声明が寄せられている。これだけの学者がまとまって反対しているのは、学問の危機、大学の危機、そして知性の危機をひしひしと感じているからだ。皆さん、一緒に闘いましょう。



宮崎礼壹さん（元内閣法制局長官） 集団的自衛権に関する議論は今に始まったことではない。戦後 40、50 年にわたって政府自身が、集団的自衛権の行使は憲法の下では許されないと繰り返し述べた。国会もそれを前提に色々な立法を行ってきた。一貫して違憲と言ってきたものを法案として出す資格が政府にあるのか。この法案は廃案にするしかない。

佐野潤一郎さん（創価大学教授） 私たち「安保関連法案に反対する創価大学・創価女子短期大学関係者有志の会」は、8月17日にサイトを立ち上げ、今日までに 1557 名の賛同を得た。私たちにとっては勇気のあることだったが、ここにいる皆さんも同じように勇気をもって集まっている。私たちの創価大学は、創価教育の父、牧口常三郎先生に基づいた教育を標榜している大学だ。その牧口先生は軍部に対抗し、逮捕され獄死した。だからそうした時代に二度としないというのが、私たち創価大学の誓いだ。



奥田愛基さん（SEALDs：自由と民主主義のための学生緊急行動） 子どもの頃は戦争の話聞くのが好きではなかった。しかし今考えると、何度も祖父たちが戦争の話をしてくれてよかったと思う。若者が頑張っているね、SEALDs もっとやってくれ、とよく言われるけど、頑張らなければいけないのは若者だけじゃない。みなさん一緒に声をもっともっと上げていきましょう。



国会請願デモを行う村越進・日弁連会長（中央）、

山岸良太・日弁連憲法問題対策本部長代行（右端）ら

■「戦争法案」を葬ろう 8.27 集会

8月27日、戦争をさせない1000人委員会と立憲フォーラムは、「『戦争法案』を葬ろう 8.27 集会」を衆議院会館で開催しました。はじめに、特別委員会のメンバーである福山哲郎参議院議員（民主党）が、「昨日の審議の中で、米艦の防護に際して邦人が乗っているかどうかは関係がないという答弁まで出て、さすがに議会在ざわめいた。もうこの事例も崩壊してしまった。9月も日々闘い、やれることを全力でやっていきたいと思う」と廃案に向けた決意を表明しました。その後、同志社大学教授で経済学者の浜矩子さんが、「安保法制・アホノミクス・日本経済の変容」と題して講演を行い「アベノミクスは外交安全保障政策と表裏一体だ。安保法制には反対だがアベノミクスは良いと思っている人は、今すぐ撤回して全面否定しなければいけない」と厳しく指摘しました。



多くの参加者で会場は満員となった（衆議院議員会館）



浜矩子さん（同志社大学教授） アベノミクスと安保法制の関連は、富国強兵路線にある。アベノミクスで富国、安保法制で強兵ということ。安倍総理は安倍政権が出来た時から「強い日本を取り戻す」という言い方をしてきた。要するに、強い国家を取り戻すための基盤として、強い経済を取り戻そうというわけだ。そういう脈絡で彼らはものを考えている。安倍首相本人はもっと直接的にそのことに言及している。今年4月に安倍首相がアメリカを訪問し、上下両院の合同会議で演説したことは、記憶に新しいと思う。日本の総理大臣で初のアメリカ議会演説として脚光を浴び、これはこれで様々な問題があった。しかしそれよりも注目すべきは、彼がこの日の夕刻に別の所で行った講演だ。彼は笹川平和財団の米国支部でスピーチをしたが、その時に「アベノミクスと私の外交安全保障政策は表裏一体の関係にある」と明言している。さらにスピーチの後、司会者が安倍さんに対して「あなたは表裏一体と言ったが、その関係についてもう少し具体的に説明してくれないか」と言った。それに対し安倍さんは「デフレからの脱却を図り日本のGDPを増やすことができれば、社会保障の財政基盤の強化にもつながるだけでなく、しっかりと国防費を増やすことができます。日本経済を強くすることは、外交安全保障政策のしっかりとした立て直しに不可欠な要素であります」と明確に答えている。要するに、経済政策を転換したのは、突き詰めて言えば防衛費を増やすためだと、はっきり言ってしまっている。強い国家を構築するために、強い経済を作る。そのためのアベノミクスというわけだ。

アベノミクスは誤った経済政策

こうした安倍さんの発言には、そもそも経済政策が何のために存在するのか、という観点から問題がある。経済政策の目的は、均衡回復と弱者救済だ。本当はこの二つこそが表裏一体の関係にある。経済活動はバランスが取れていることがとても大切だ。バランスが崩れるというのは、例えばとてつもないインフレになるとか、バブル化が進むことで、最もその被害を受けるのは弱者たちだ。猛烈なインフレの中では貧困世帯の人々は生活していくことができない。デフレの中でも非正規労働者、失業者たちがどんなにひどい目に合ってきたかは皆さんもよく承知していると思う。経済活動を営む存在は人間だけだ。だとすれば、経済活

動が人間を不幸にし、人権を踏みにじってはいけない。そうなったら経済活動ではない。経済政策の役割とは、経済活動のバランスが崩れた時に大急ぎで元に戻すことであって、決して強い国家の基盤を作ることではない。政治的目的のために経済政策を手段とすることは非常に恐ろしい。ギリシャ問題はそれを示してくれている。ギリシャがユーロという通貨を導入したために、欧州中が振り回されている。そもそも経済の実態があれほど異なる国々が単一通貨を共有すること自体まったく合理性がなかった。ではなぜ彼らはユーロを導入したのか。それは外交安全保障に関する思惑があったからだ。東西ドイツの統一によりマルクが欧州最強の通貨となってしまっただけで困るので、ユーロによってドイツを封じ込めようとしたのだ。そのため、まるで経済状態が整っていないのに、大急ぎで単一通貨を導入してしまった。

政治の思惑のために弱者救済以外で経済政策を振り回すと、必ず経済側からリベンジがくる。今の日本経済はバランスを崩している。豊かさの中に貧困を抱え込んでしまった。全体が豊かなのに、その中に大きな貧困スポットがある。このアンバランスを解決していくことこそ最大の課題であるはずなのに、経済政策は安全保障政策と表裏一体と考える彼らにはこのことが全然目に入っていない。豊かなものにししか目を向けず、貧しいものたちは強い経済の足を引っ張るものでしかない。そういう人はせいぜい兵隊にでもなってください、という発想しか彼らにはない。富めるものをより富ませ、成長するものをより成長させる。それによって全体に恩恵がいく。彼らはこれをトリクルダウン効果と呼び、これを目指すと言ってきた。しかし、本当はトリクルダウン効果さえ狙っていないのではないかと思う。強いものが強くなるだけでいいというのが彼らの本音だろう。世の中には、「安保法制は嫌だけど株も値上がりしたし安倍政権の経済政策はいいよね。もっと経済政策に取り組んでくれればいいのに」という感覚の人が少なからずいる。しかし、本人が外交安全保障政策と表裏一体だと言っているのだから、その感覚はそもそもまったく成り立たない。従って、万が一、安保法制には反対だがアベノミクスにはちょっとでも良い部分があると思っている人は、今すぐ撤回し、全面否定しなければいけない。

「戦後レジームからの脱却」の意味

同時に、安倍政権の外交政策についてももしっかり考えなければいけない。彼らは戦後レジームからの脱却を唱えているが、それはどういうことか。これは端的に言えば戦前に戻るとのことだ。ここで気をつけなければいけないのは、安倍政権はアメリカにべったり追従しているのに、同時に戦後レジームから脱却しようとしていること。今日の日米関係は戦後レジームそのものなので、そこから脱却しようということは、実は日米安保強化もアメリカを喜ばせるふりをした方便ではないのかと私は思う。とりあえずこのロジックで進め、軍事を強化しようという考えがあるのではないか。だから「アメリカの奴隷だ」といった批判はあまり効果的ではない。安倍政権に対抗するためには、異なる意見も傾聴する耳、人の痛みに涙する目、人に差し伸べる手が必要だ。これこそ彼らが持たないものなので、この三つを持ち、アベノミクスの向こう側に一緒に向かっていこう。

■8.27 戦争法案反対 国会前連続集会（第15回）

戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、8月27日、「戦争法案反対 国会前連続集会」の第15回目を開催しました。集会には約2000人の市民らが参加し、戦争法案と安倍政権の暴走に対して抗議の声を上げました。また、小西洋之議員（民主党）や福島みずほ議員（社民党）、井



「8.30を成功させよう」と決意を固めた（衆院議員会館前）

上哲士議員（共産党）ら国会議員も駆けつけ、特別委員会の現状を報告し、戦争法案の廃案を訴えました。他にも、暉峻淑子さん（埼玉大学名誉教授）をはじめ、各界からのアピールが行われました。集会の最後には、「8月30日の大行動を成功させよう」と呼びかけが行われ、「8.30国会10万人・全国100万人大行動」に結集して、全力で闘うことを確認しました。

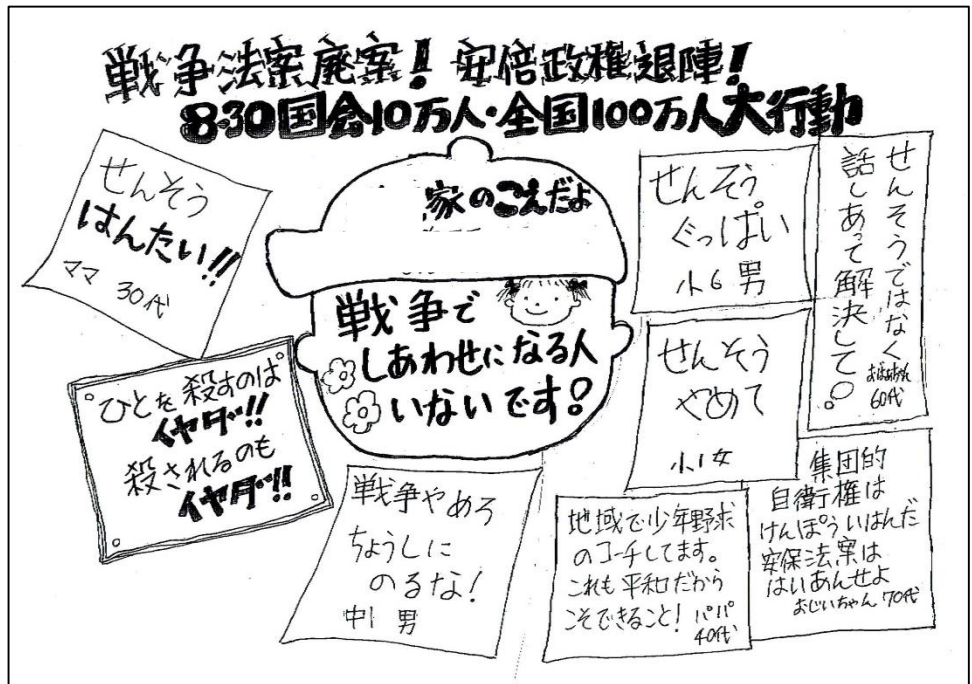
■みなさんからのメッセージ

— 安倍首相は心配ないという言葉でごまかしていますが、法律が出来てしまえば、個人の力で背くことは出来ません。法律を作った人たちは、直接何もしないばかりか、結局、武器を持ち危険な場所に赴くのは若い人たち。日本の若者は政治に無関心と言われ続けてきましたが、原発事故の後、再稼働反対や今回の強行採決にも、若い人たちが体を張ってデモに参加しているのを見て、とても頼もしいと思いました。（兵庫県・女性）



8月30日、国会正門前では戦争法案に反対する数万人の市民の押し寄せ、安倍政権に対する怒りは頂点に達した（写真＝今井明）

— 集団的自衛権の行使に反対します。戦後私たちは、「他国と武器を使った戦争はしない」と決めました。子ども達にも、そのように教えてきました。平和を愛する日本人として誇りに思っています。多くの人々が「安倍政権の下で強引な手法で集団的自衛権の行使容認が決定される」ことを暴挙と感じています。自民党・公明党が全員首相と意見を同じくするのも不思議ですし、その様が恐ろしいです。国民の意に反した現政権の怖さを感じます。法案を撤回して取り下げになるよう、心から願っています。（埼玉県・女性）



事務局に届いたFAXによる家族の寄せ書き（神奈川県）

— もはや一日も安倍内閣を続けさせてはなりません。なんとしても声を上げ国民の中へ拡げていきましょう。この9月上旬は最大の山場。反対している仲間が手をつなぎ、世の中を変えていきましょう。

■集会・活動スケジュール

9月4日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせて頂くことがあります。行動の詳細は1000人委員会ホームページ、または「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」のウェブサイト <http://sogakari.com/> をご覧頂くか、事務局までお問い合わせください。

- 9月 8日(火) 18時30分～ 戦争法案廃案！安倍政権退陣！ 9.8 新宿西口大宣伝
場 所：新宿駅西口
- 9月 9日(水) 18時30分～ 戦争法案廃案！安倍政権退陣！ 9.9 日比谷大集会
場 所：日比谷野外音楽堂 ※国会と銀座の二方面にデモ
- 9月 10日(木) 13時00分～17時00分 戦争法案廃案・国会正門前座り込み行動
18時30分～ 戦争法案廃案！国会正門前大集会
場 所：国会正門前
- 9月 10日(木) 17時00分～ 「戦争法案」を葬ろう 9.10 集会
場 所：憲政記念館 講堂
講 師：落合恵子さん(作家)
山口二郎さん(立憲デモクラシー)ほか、各界アピール
主 催：戦争をさせない1000人委員会・立憲フォーラム
- 9月 11日(金) 13時00分～17時00分 戦争法案廃案・国会正門前座り込み行動
18時30分～ 戦争法案廃案！国会正門前大集会
場 所：国会正門前
- 9月 12日(土) 14時00分～ 止めよう！辺野古埋め立て9.12 国会包囲行動
場 所：国会周辺
- 9月 14日(月) 13時00分～17時00分 戦争法案廃案・国会前座り込み行動
18時30分～ 戦争法案廃案！国会包囲行動
場 所：国会正門前
- 9月 15日(火) 13時00分～17時00分 戦争法案廃案・国会前座り込み行動
18時30分～ 戦争法案廃案！国会正門前大集会
場 所：国会周辺
- 9月 16日(水) 13時00分～17時00分 戦争法案廃案・国会前座り込み行動
18時30分～ 戦争法案廃案！国会正門前大集会
場 所：国会正門前
- 9月 17日(木) 13時00分～17時00分 戦争法案廃案・国会正門前座り込み行動
18時30分～ 戦争法案廃案！国会正門前大集会
場 所：国会正門前
- 9月 18日(金) 13時00分～17時00分 戦争法案廃案・国会正門前座り込み行動
18時30分～ 戦争法案廃案！国会正門前大集会
場 所：国会正門前

<事務局からのお願い>

各地域で活動されている皆さんの取り組み、1000人委員会の活動、賛同者の皆様のメッセージなどを掲載します。事務局へ手紙、FAX、メールでお寄せください。紙面の都合上、掲載しきれない場合はご了承ください。